

「HILLTOP 流 事業家のススメ」

HILLTOP 株式会社 代表取締役副社長 山本昌作様 講演会

7 月 31 日 於 公益財団法人京都産業 2 1 研修室 及び ZOOM
会社訪問・研修委員会 株式会社オージーファイン 小川保弘

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行が発生し、経営環境が急速に変化する中で、会社訪問・研修委員会では会員の皆様にあらためて今後の自社の経営について考えていただく機会をつくりたいと考え、企業の自立と思いつく将来の夢の実現のために既存の常識を打ち破り事業の変革に取り組んでこられた HILLTOP 株式会社 副社長 山本昌作様に「HILLTOP 流 事業家のススメ」という題でご講演をいただきました。

この度の例会では、初の試みとして ZOOM を利用して会場とオンラインのいずれでも参加いただける形式を取り、会場 22 名、オンライン 19 名の合計 41 名にご参加いただきました。例会の冒頭では京都府商工労働観光部の森西様と酒部様にお越しいたいただき、働きやすい職場づくりを支援する補助金についてご説明いただきました。



山本様の講演は、現在の逆境と思われる環境においても、普段から将来何をしたいか考えている者にとってはチャンスがあるという話に始まり、「儲かることを優先して同じ作業を繰り返す安易な方向に進まず、知的労働で人が成長する環境をつくることを重視してきた。製造業務のリモートワークも可能になり 30% 以上の社員の在宅勤務が可能となっている。ロボットを開発する企業になるという夢に向かって機械加工から装置開発やデバイス、ソフト開発へと事業を広げてきた。医療分野のベンチャー企業から依頼を受け 6 年間で数億円をかけて PCR 検査装置を開発し上市できた。かつては社員から笑われた白衣を着て働く会社になるという夢が実現している。」といった驚くようなお話を聞かせていただきました。

また、社員の育成については、「実現したいことを普段から伝えており、社内の各セクションで考えてくれるのであまり口は出さない。減った仕事を分け合うようなことはせず、自由な時間を与えている。いまできる事を社員が考えるように促し、意思決定のできる社員が育つことを重視している」とのことでした。



講演の最後では、自身の年表を示しながら「順調に成長してきたように見えるかもしれないが、ひとつの取り組みで成果が出るまでには 3 年から 5 年かかっている。機青連の仲間の助けでできたこともある。苦しい時期もうまくいっている時期も現状に満足せず自分のやりたい事を実行し、人を育てることを重視してきた結果、事業が大きく進むようになってきた。皆さんもまだ時間があると思わずにチャレンジしてください。」と熱くメッセージをいただきました。

後半の質疑では、会場だけでなく ZOOM での参加者にも質問を募り、講演内容に関することや現在の自らの悩み事について沢山の質問があがりました。社員への接し方についての質問への回答は、座右の銘である「起きて半畳、寝て一畳」という言葉を挙げられ、「自分ひとりではできることは限られている。社員は自分の夢を共有し手伝ってくれる存在であるということを忘れず、自分自身の将来の夢やビジョンを明確にして自信をもって社員に伝えることが大切」、「たまたま後継者に生まれただけで、自らの立場にあぐらをかかず常に企業を変革し続ける気概のある事業家であってほしい」等、若手会員に向けて激励の意を込めて回答をいただきました。



新規事業への投資がうまくいかなかったときや、必要な知識や人材が足りない場合は？といった質問にも、過去の自社での事例をもとに判断の基準や、強い思いで自社に足りないものを求めて実現してきたという例を上げて説明いただきました。また、「常に自身の興味のある情報を収集し、社員や企業の成長も考えて現状の自社のストライクゾーンでない仕事にも臆さずチャレンジする。それがチャンスをつかむことにつながる。」というアドバイスをいただきました。

社員の育成にかける熱意についての質問には、企業の理念を「理解と寛容をもって人を育てる」とされており、「一人ひとりの社員の存在を尊重し、欠点を探すのではなく能力を發揮できるような環境をつくるのが大切だと考えている」と説明されました。

質疑の最後には、「いま人を大切にしている企業が伸びていると言われるが、経営者と社員の距離が近く長い付き合いになる中小企業こそが互いの信頼関係のもと人を大切にできる会社になれる。顧客のことを考えて仕事をする社員に対して、経営者のお客さんは社員である。自分の夢を共有してくれて支えてくれる存在であるということを理解していたら人に優しい企業経営者になれるし、皆さんにもそう思ってもらいたい。」と締めくくられました。



例会の終わりにあたり、高木金属株式会社 代表取締役社長 高木様より若手会員に向けて、「私もいつも山本副社長から学んでいて、今日も人を大切にするという機青連の原点とも言える話を聞け、この機会に再度思い返している。山本副社長は来るものを拒まない方なので、そばで学んでいただきたいし、これからも今日のように大切なことを機青連で学べるよう活動してください。」とコメントいただきました。私も企画する上で、山本様にいろいろなお話をうかがい大変勉強になり、今回学んだことを実践していきたいと思えます。

最後になりましたが、例会講師の依頼に快く応じていただきました山本様にあらためて御礼申し上げます。また、会場の利用については公益財団法人京都産業 21 勝山様に大変お世話になりました。当日は委員メンバーの連携でスムーズな進行ができたことを感謝いたします。